

# 芸術新潮

アート・ニュース  
Chim↑Pom  
大回顧展

特別対談  
岡田准一 × 上田義彦

*Graphic Studio*

4

## 鏗特集木清方

語りはじめる  
美人画



●アンドレア・アッピアーニ  
《フランチェスカ・ギラルディ・レーキの肖像》 1803年  
油彩、カンヴァス 97×72cm トリヴルツィオ財団蔵



## 神

話の女傑、優雅な貴婦人、愛情豊かな母親、

官能的なモデル——さまざまなタイプの女性が、古今東西の芸術家たちの創作意欲をかきたててきた。今展はルネサンスからベル・エポックに至る4世紀にわたり、イタリア美術において、描かれる女性が担ってきた役割に焦点をあてる。90点以上の作品その多くはフライハートコレクションが8つのセクションに分けて展示されている。

最初のふたつは、古代・中世からの伝統的題材で、聖女や聖書に登場する女性、ウィーナスに代表される神話の女神、クレオパトラなど歴史上の有名な人物を描く絵画が集め

られている。16世紀後半からの肖像画のセクションでは、

当時の服装や髪型、装飾品まで丁寧に描かれた女性たちが並ぶ。右はイタリア北部を治める王となったナポレオンの肖像画を制作し厚遇を受けた新古典主義の画家アンドレア・アッピアーニによる、フランス出身の女性革命家フランチェスカ・レーキの肖像画。25年以上一般公開されていなかった作品だ。伯爵家に生まれながらフランス革命で体現されたジャコバン党の思想に共鳴して若くして家を出、ミランでも政治的影響力を発揮した人物だが、フランス風の「エンパイア・スタイル」で描かれ、イタリアのロマン主義

## ■ Brescia

# 画中の“女性”たちの変遷

「芸術における女性 ティツィアーノからボルディーニまで」展  
1月22日≫6月12日 ブレシア、マルティネンゴ宮

義絵画の先駆けとなった。

バロック以降の傾向としては、民衆層の女性がしばしば絵画の題材となっていく。19世紀後半にはモラルにとらわれず表現の自由を追求する芸術の流れと同調し、裸体画や官能的な女性の描写が登場。そして19世紀末から20世紀初めにかけての、女性が仕事に従事する姿(農作業、レース編み等)が題材となった絵画で展示が締めくくられる。